

「研修会等名称」

私立大学情報教育協会 「教育の情報化フォーラム」

場所：中部大学

期間：2003 年 6 月 20,21 日

1. 研修の内容

2 日間の開催期間中に基調講演および 8 タイトルのテーマ別自由討議が行われた。基調講演は授業の関係で出席できなかったが、テーマ別自由討議では、1 時間の講演に引き続き 1 時間半にわたる非常に活発な質疑、討議等が行われた。

東海大学・及川義道氏による「e-learning の実践 - Web 対応の CAI 教材を用いた授業展開 -」では、講演者自身による Web 教材を用いた e-Learning の事例報告であった。一般的に e-Learning という用語と遠隔非同時的 (Tele-Learning) 講義を連想するが、報告された事例は受講生が授業時間に教室に集まり、Web 教材を用いて独習するという形式であった。従って、e-Learning 全般に関わる議論というよりも、Web 教材を用いた授業実践、テキスト作成および作成支援、習熟度別コース選択などについての質疑応答が行われた。

講演および討議の内容の一部を以下に示す。

- ・ Web 教材を用いた授業が化学など実験を伴う科目であり、コンピュータ・グラフィックス等を用いた模擬実験で済ませることができるため、実験実習を伴う科目としては大人数の受講生を一度に指導することが可能であった。
- ・ 独習形式であり、また習熟度別コースも用意されているため、各自の理解度に合わせた学習が可能である。
- ・ 教材作成には非常に時間が掛かっており、現在市販されている教材作成支援ソフトなどでは満足のいく教材が作れない。
- ・ 教材作成支援があっても、その教科の専門的知識がないとかわって二度手間になり、支援体制がしっかり機能するのは非常に難しい。

2 日目に行われたメディア教育開発センター・吉田文氏による「高等教育におよぼす IT 化のインパクト：その世界的潮流」では、e-Learning に関するアメリカ事情が報告された。具体的には、e-Learning 履修者数が増加傾向にあることや、開講コースの種類、実施方法、さらには実際の大学名をあげての失敗例、成功例とその原因についての報告がなされた。

講演および討議の内容の一部を以下に示す。

- ・ アメリカ市場ではフェニックス大学の一人勝ち状態であり、そのシステムは決して最先端の技術ではなく、いわゆるローテクで誰もが参加可能なものである。
- ・ チューターやメンターの存在意義は大きく、学生 10 人に一人くらいの割合である。
- ・ 受講者は有職成人が多く、キャリアアップの目的がほとんど。従って、開講コースも経営学が最も多い。
- ・ 高卒後の伝統的な学生層も e-Learning の受講生となっているが、青少年の社会化の問題があり、e-Learning を導入しない、と明言している大学も存在する。

2. 研修の成果

Web での授業実施，アメリカにおける e-Learning の現状から総合的に判断すると，e-Learning はあくまでも授業の補助的手段として用いるべきであり，それ自体を売り物にして学生を集めるようなことはするべきではないと考えられる．例えば，入学前教育や補講，復習等あくまでも一般的な授業の補助として利用されるべき物であると考えられる．逆に言えば，補助的手段としてはこれほど有用な物は無いと思えるほど様々な学習内容，学習方法を提供できるので特定の学部だけでなく，大学全体としての運用を考える時期に来ている．

3. 授業への研修成果の反映状況

| 学部長 | FD委員長 | FD委員会 | 総合企画課長 | 係 |
|-----|-------|-------|--------|---|
| | | | | |